

【評価実施概要】

事業所番号	170501316		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホーム てんとう虫の家		
所在地	〒005-0814 札幌市南区川沿14条2丁目3-23 (電話)011-572-8845		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価機構K-ネット		
所在地	〒060-0061札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル601B		
訪問調査日	2009年12月16日	評価確定日	平成22年1月22日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 7人	非常勤 1人 常勤換算 0.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,333 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	3名	要介護2	0名			
要介護3	2名	要介護4	2名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	83.9歳	最低	75歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛全病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街の中にあり、同法人が運営母体の老健施設が隣接している。2階建て1ユニットのホームは、2階に5居室、1階には4居室と暖かく落ち着いたリビングと対面式のキッチンを中心に、利用者が集まりやすく安心感を与える雰囲気である。キッチンでは職員と活き活きと調理をする利用者、リビングでは利用者同士、職員との会話が聞こえ利用者が笑顔で生活できる環境である。また、2階のラウンジには図書コーナーを設け、1階からの人の声や気配を感じながらも、1人になれるよう配慮されている。職員のチームワークの良さ、ケアに対する意識の高さは、家族からも厚い信頼を得ている。地域との関係も良好で、地域に支えられ、地域に根つき大切なホームになりつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において、改善課題は挙げられていません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価の意義を理解し、支援のあり方を見直し、利用者の現状を分析し検討を重ね、職員の意識とサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、地域包括センター・町内会役員・家族代表・利用者・ホームの職員・事業所関係者が参加して、定期的開催され記録されている。ホームの行事や、事故報告、避難訓練、外部評価等について話し合い、意見交換を行う。運営推進会議で検討された議題は、サービスの質の向上や運営に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム内に意見箱を設置、家族へはアンケートを実施、運営推進会議への参加を全家族に案内をしている。家族への定期的な報告や、訪問時には意見や要望を積極的に聞き、運営に活かされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の回覧板を利用し、地域の方にホームに対する理解を得ている。町内会の行事に参加し、近隣の散歩でも交流を深めている。また、地域の保育園との交流も行なわれる等、地域との交流は盛んである。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での生活や係わりを大切にすることをグループホームの理念に掲げている。また、5つのケア理念を掲げ、その人らしい生活が継続できるような内容となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は会議の中でも話し合い、日々利用者に係わる際に理念を意識してケアに取り組んでいる。また、運営推進会議の資料の表紙には必ず理念を掲げる等、常に理念に立ち返り実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の敬老会や、ふれあいサロン(月2回)等、利用者の状態に合わせた行事に参加している。また、町内の方の家庭へ遊びに行く等地域との交流は盛んである。ホームにおいては、オカリナ・手品・ダンス・お話し・人形の着物作り等ボランティアの訪問がある。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組むことで、日常でのケアを振り返る場となり、これからの支援を見直し、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、家族や地域のメンバーにより構成され、定期的開催されている。ホームでの活動報告・事故報告等を説明し、意見や助言を得る場となっている。家族からの意見や要望を聞ける場として、全員に日程の案内を出している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>札幌市管理者連絡会や南区管理者連絡会等、行政の担当者とは様々な機会を利用して、意見交換・情報交換を行い市との連携を深めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「てんとう虫通信」を発行し、行事やホームでの暮らしぶりを伝えると共に、一人ひとりの健康状態や日常の様子を伝える手紙を添えている。また、家族の訪問時にも日々の生活状況を知らせている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に、苦情及び相談窓口、第三者機関への苦情申し立て方法の説明と確認を行っている。家族の訪問時、運営推進会議の中で家族の意見を聞く機会を作り、サービスの質の向上に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小減となるよう配慮し、新たな信頼関係を築くまで馴染みの職員と対応する等、利用者への影響が最小限となるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各委員会を設置する等サービスの向上に向け内部研修は充実している。外部研修においても管理者は情報提供に努め、職員が研修に参加できるよう支援している。研修に参加した職員は、報告書の提出と発表の場があり、全職員が研修報告書と資料の閲覧ができる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道認知症高齢者グループホーム協議会・南区グループホーム管理者連絡会の交流会に参加し、意見交換を行いサービスの質の向上を目指している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、本人や家族から希望や要望を聞き、ホームを見学、共に過ごす時間を設ける等、安心感を持って入居できるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者の個性や力が発揮できるよう支援している。利用者同士の関係は良好で、職員は一人ひとりの力が発揮できる場面を多く持てるよう工夫し、声かけに配慮している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の係わりの中で、会話、表情や行動等から意向を汲み取り、利用者の変化や問題点を話し合い、その人らしい生活が送れるよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアの質の向上のため、職員にはそれぞれの委員としての役割分担があり、定例の研修会で意見交換を行い、介護計画の作成に活かしている。また、1年に1度家族にアンケートを行い、家族からの意向も聞き入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しのほか、利用者の状況の変化に応じ、主治医や関係者との話し合いで、随時介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況に応じ、病院への受診や送迎を行っている。また、その時々々の要望に応え買い物等個別の対応も行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者、家族が希望するかかりつけ医との関係を大切にしている。2週に1度の訪問診療、定期的な訪問看護ステーションの健康相談があり、24時間いつでも対応できる体制になっている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重要事項説明書に、重度化や終末期に向けた指針が記載され、本人や家族ならびに関係者全員と方針を共有している。また、関係医療機関との連携もあり、重度化や終末期への対応ができる体制になっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	マニュアルやミーティングで職員のプライバシーに対する意識の向上を図り、日々の利用者への係わり方に配慮している。記録の管理においても、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は、一人ひとりの状況や思いを尊重し、その人らしい一日を送れるよう配慮しながら柔軟な対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所から聞こえてくる会話や音等から、利用者が生き活きと食事の準備や調理、盛り付けや後片付け等、一人ひとりの力を活かし、楽しく食事が出来るよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ、入浴日や時間は自由に決めることができる。最近では、自主的に入浴を希望する方が少なく声かけや、入浴が困難な方には足浴から行う等、楽しく入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朗読や歌、肩を揉んだり、調理を楽しむ等、利用者の趣味や得意なことを把握し、一人ひとりの力を活かせる場を多く持ち柔軟な支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、花や畑の手入れ、買い物や喫茶店に出掛ける等、季節や一人ひとりの状況や希望に沿った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関へはリビングを通るため、いつも利用者が集まるリビングでは、必ず職員が見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。法人の防災担当との研修会や夜間の災害を想定し、職員の動きや対応の訓練も行っている。地域の方の参加はあるが、地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いしている。		利用者の状況は日々変わっていくが、災害時に利用者がどのような行動をするのか把握し、今後の参考のためにも一度利用者参加の訓練を行うことを期待したい。隣接している同法人の老健施設との災害時支援体制が整備しているが、ホームの立地からも更なる近隣の協力を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を個別に記録し確認している。飲み込みの悪い方にはゼリーで対応し、水分摂取が十分でない方には飲むタイミングやコップの工夫をし、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るくソファや椅子が設置され、対面式のキッチンが利用者がいつでも家事を行うことができ、キッチンから聞こえる音や香りは生活感があり、居心地の良い家庭的な雰囲気がある。トイレ・洗面所・お風呂の配置は介助しやすく機能的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や利用者の生活に合わせた調度品が配置され、居心地の良い生活が送れるよう工夫されている。		

 は、重点項目。